

東海大相模高

高校

神奈川県

明治神宮大会王者・横浜高とつばぜり合いができる役者が揃っている。エース右腕・福田拓翔は今どき珍しいワインドアップから、質の高い快速球を投げ込む。ストレートの軌道から動くスライダーは並の高校生では攻略困難。今季は結果を残し、ドラフト上位評価を勝ち取れるか。主砲の金本貫汰は打力だけでなく、盗塁可能な俊足を併せ持つ。昨夏の甲子園で打率.545をマークした中村龍之介はプレーに柔らかさがあり、高い将来性を感じさせる。



NTT 東日本

社会人

東京都

石井巧、道原慧は要注目。特に大卒2年目の石井は社会人で攻守に力強くなり、存在感を増している。需要の高い右打ち遊撃手という属性もポイントだ。大卒3年目で即戦力が求められる道原はシュアな打撃と快足で攻撃性をアピールしたい。ポテンシャルが高い高卒4年目右腕・寺嶋大希にもチャンスはある。徳島商高時代に「プロ志望届を出せば指名確実」と言われた森煌誠は2年目を迎え、登板機会を増やせるか。

明治大

大学 (東京六大学リーグ)

東京都

史上最長15年連続でドラフト指名選手を輩出する名門。今年も更新は確実で、強打の正捕手・小島大河は上位指名の期待がかかる。ダイナミックなアクションから快打を放つだけでなく、内野適性を持つ点も強みだ。投手は潜在能力の高い高須大雅、久野悠斗、毛利海大、大川慈英の4年生から誰が突き抜けるか。トミー・ジョン手術明けの久野は、捕手に向かって加速する体感の好球質。大川は猛烈な勢いで短いイニングを押し切る救援型だ。



きつかけ一つで主役になれる男

人材の宝庫だけに、もう一伸びすればドラフト戦線に浮上するだけの怪素材も豊富だ。

齊藤汰直 (亜細亜大) はリーグ戦でそれなりの実績があるものの、真価はこんなものではない。秘めた能力が開放されれば、1位指名も狙える。榎原遼太郎 (國學院大)、国本航河 (筑波大) とい

った質のいい快速球を投げ込む右腕も、もって話題になっていい。昨秋の横浜市長杯で目を引いた中沢匠磨 (白鷗大)、宮田率生 (帝京大) はリーグ戦での実績を積み上げ、スカウト陣を振り向かせたい。

社会人屈指の速球派である富士隼斗 (日本通運) は、アマ最高峰の舞台で実戦力を養えるか。弟・大和 (西武育成1位) に続いてのブロー入りは射程圏内だろう。法政大時代に上位指名候補だった尾崎完太 (セガサミー) は課題の安定感を手に入れば、鬼に金棒だ。



櫻井 ユウヤ (昌平高)

高校生投手には洲永俊輔 (佐野日大高)、奥村頼人 (横浜高) と体力がついてくれば大化けしそうな好左腕がいる。昨夏の甲子園で指にかかった快速球を披露した右腕・柳澤拓輝 (日本航空高) も、小柄ながら成長が楽しみだ。

高校生野手は低反発バットの導入後、強打者の台頭が大人しくなった印象を受ける。そんな流れに歯止めをかけてほしいのが、櫻井ユウヤ (昌平高)。爆発力のある打撃で存在感を見せつけたい。

外野手はスカウトの評価が渋りがちだが、運動能力の高いアスリート型なら話は別だ。海老根優大 (SUBARU)、岡城快生 (筑波大) は、コンスタントに打撃でアピールできるか。高校時から注目の花田旭 (東洋大)、西原太一 (上武大) も殻を破りたい。